



セクシュアリティは グラデーション

～多様な性を理解する社会へ～

セクシュアルマイノリティの有名人がテレビ番組を賑わしていたり、映画やドラマで主人公役を演じるのを目にするようになり、各自治体や企業、教育の現場ではセクシュアルマイノリティへの対応、取り組みが少しずつ広がりつつあります。今回は、セクシュアルマイノリティを正しく理解いただくために、特にLGBTについて取り上げ、その現状を知り、課題を共有していきたいと思います。

セクシュアルマイノリティ
(性的少数者)とは

新聞や雑誌で目にするが増えたLGBT。「セクシュアルマイノリティ(性的少数者)」の総称として使われる語ですが、これは【図表1】で表されているように四つのセクシュアリティ(※1)の頭文字を並べたもので、性的指向と性自認の類型をいいます。性的指向とは、どのような性別の人に恋愛感情・性的関心を抱くかというものです。性自認は、自分の性をどう認識しているかの感覚をいいます。

このほかに、自らの性的指向や性自認がまだよくわからない、あるいは決めてしまいたくないという人もいて、そうした人たちは総じて「クエスチョニング」という類型でとらえられています【図表1】。

私たちの性は男女どちらかにきつぱりと分けられるような単純なものではなく、様々な要素から成り立っており、ひとりひとりにそれぞれの性(性的指向)と性自認があると言っても過言ではないのです。

しかし、現実には多くの人が、人間には男女どちらかしかおらず、異性に惹かれるのが自然と捉えている

ために、それに当てはまらないLGBTの人たちが様々な困難に直面してしまうのです。

LGBTの困りごと

企業による調査によれば、目下日本でのLGBTの割合は、人口のおよそ8.9%といわれます【図表2】。LGBTに関わる情報が増え、自らのセクシュアリティに気付く人が加われば、今後この割合は増えるでしょう。とはいえ、少数派であることには変わりありません。カミングアウト(自らの性的指向や性自認を公にすること)の有無に関わらず、LGBT当事者は学校や職場などで様々な困りごとを抱えているのが現実です。

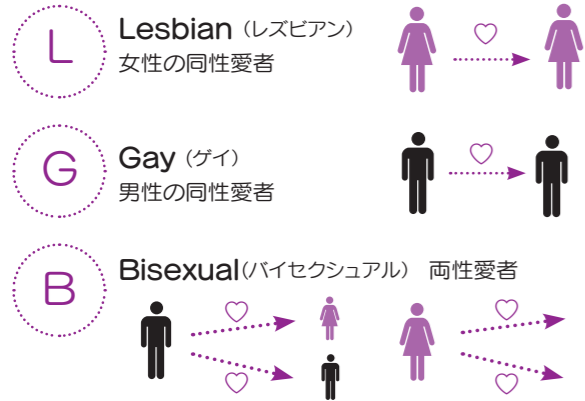
LGBT法連合会によれば、たとえば学校や家庭では、「男のくせ」など、仕草や言動をからかわれたり、教師や親に相談しようとしても、彼らにLGBTについての正しい知識がないばかりに、言いかけても逆に一方的に非難されたり、病気だから治療するよと言われたりすることがあります。就労場面では、カミングアウトしたとたん周囲から孤立したり差別や嫌がらせを受けたりして、はては退職、



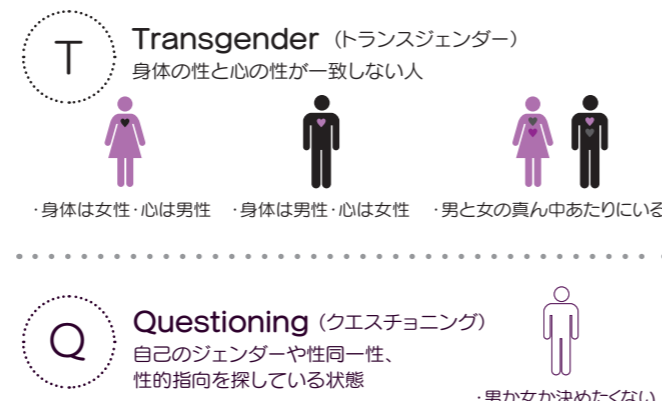
図表1

「性的指向」と「性自認」 = SOGI(※2)

性的指向=「好きになる性」



性自認「心の性」

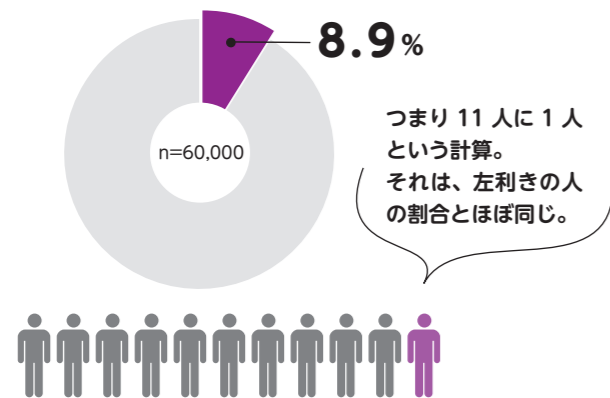


(※2) SOGI(ソジ)とは、Sexual Orientation and Gender Identityの頭文字を取った言葉で、日本語では「性的指向」と「性自認」を表すものです。

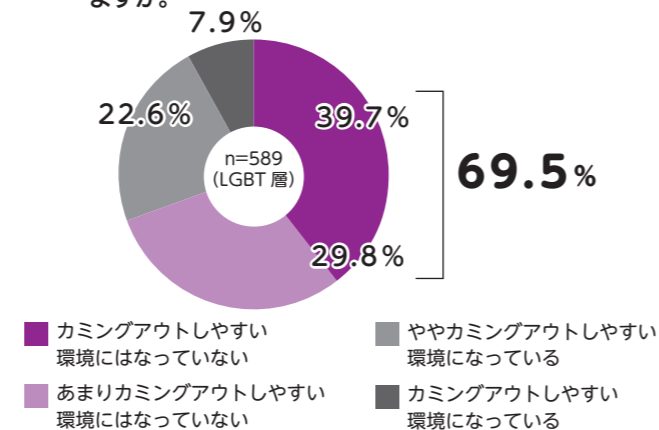
図表2

ご存知ですか？ LGBTの現状

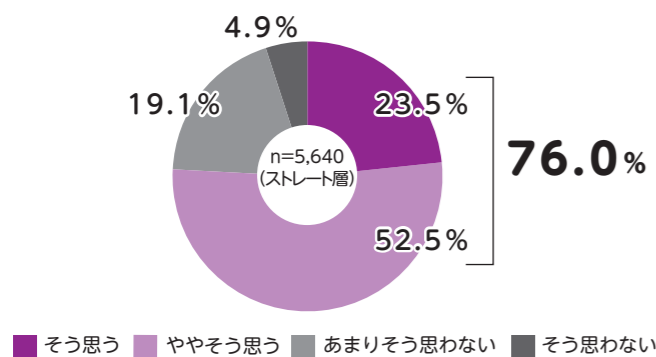
Q.1 日本のLGBT層の割合 (ストレート(※3)を除く、LGBT、その他セクシュアリティ)



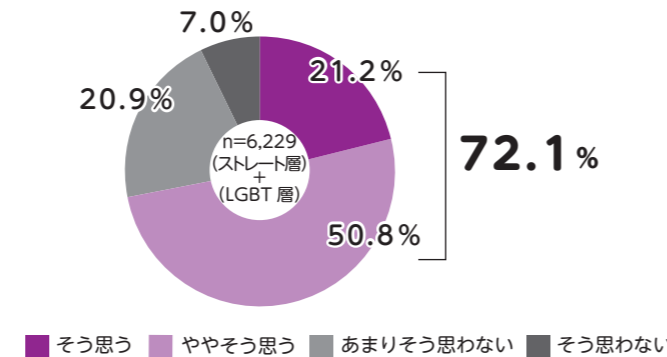
Q.2 以前に比べて、近年周囲の人にLGBT当事者であることをカミングアウトしやすい環境になっていると感じますか。



Q.3 LGBTの人に不快な思いをさせないために、あなたはLGBTについて正しく理解をしたいと思いますか。



Q.4 LGBTの差別をなくすため、日本は、もっと法整備をするべきだと思いますか。



出典：電通「LGBT調査2018結果～基本データ～」 調査対象：スクリーニング調査 20-59歳の個人 60,000名・本調査 20-59歳の個人 6,229名

(※3)ストレートとは、異性愛者のことを指し、セクシュアルマイノリティではない人のこと

(※1)セクシュアリティとは、広い意味では、人間の性のあり方を意味する。狭い意味では、恋愛や性的な興味の対象がどのような性別に向くかを意味する「性的指向」や、自身がどのような性別だと思うのかを意味する「性自認」などを示す言葉として使われる。